

こども芸術学科 学科ルーブリック (学修到達度ルーブリック)

| 芸術学部ディプロマ・ポリシー | | | 学科別 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|----------------------------|------------|---|---|--|--|---|--|
| DP | 6つの力 | 内容 | 内容 | 卒業時到達レベル (=DPにおける到達目標レベル) | 3年修了時到達レベル | 2年修了時到達レベル | 1年修了時到達レベル |
| 人間力 自立した一人の人間として生きるための力 | 知識・情報収集力 | 自分をとりまく人間、社会、自然に対して開かれた好奇心をもち、自身の学修や企画に必要な知識と情報を、主体的かつ体系的に収集し理解することができる | 地域や社会のために、また、自らの視野や活動を主体的に広げるために、体系的に理解した幼児教育・保育・福祉に関する情報や知識を活かすことができる。 | ○ 地域や社会のために、また、自らの視野や活動を主体的に広げるために、体系的に理解した幼児教育・保育・福祉に関する情報や知識を活かすことができる。 | ○ 実践に応用できるよう幼児教育・保育・福祉に関する知識や情報を体系化し、また、それらを他者へも説明することができる。 | ○ 幼児教育・保育・福祉に関する基本概念と、対人援助の基礎的な技術を関連づけながら理解することができる。 | ○ こどもに関する情報や知識の収集を好奇心を持ちながら主体的に行うことができる。 ○ 幼児教育・保育・福祉に関する基本的知識を理解している。 |
| | コミュニケーション力 | 人間の多様性を理解し、異なる価値観をもつ他者との間に相互理解を形成し、協働することができる | こどもや地域社会に積極的に、且つ柔軟に関わりながら、自己と他者の相互理解を継続的に深めることができる。 | ○ こどもや地域社会に積極的に、且つ柔軟に関わりながら、自己と他者の相互理解を継続的に深めることができる。 | ○ こどもを含む他者の主体性を意識しながら、共に活動し、共に考えることのできる協働性を身につける。 | ○ こどもを含む他者との対話的な関わりや問いかけのなかで、それぞれの主体性を尊重することができる。 | ○ こどもの豊かな感性や表現を受け止め引き出す援助法・指導法の基本を身につける。 ○ 造形活動への言葉による省察を通じて、自己と他者との相互に理解する手がかりを掴むことができる。 |
| | 倫理観 | 自身の良心と社会の多面的な理解に基づき、社会のために芸術の力を活かすことができる | 自身の良心に従い、「こども芸術」の力を人のために社会で活かすことができる。 | ○ 自身の良心に従い、「こども芸術」の力を人のために社会で活かすことができる。 | ○ 幼児教育・保育・福祉施設の目的や役割、保育者としての倫理観をもちつつ、その一員として参加することができる。 | ○ 幼児教育・保育・福祉施設の目的や役割、保育者としての倫理的責務を体験的に理解することができる。 | ○ 幼児教育・保育・福祉施設の社会的な目的や役割を理解している。 ○ 保育者としての倫理的責務の基礎について理解している。 |
| 創造力 芸術の力を社会に活かすための力 | 論理的思考力 | 所与の情報をもとに、物事を分析的かつ論理的に考えることができる | 自らが構想した活動を通じて、「こども芸術」の意義や可能性を論理的に思考することができる。また、他者が共感できる文脈を意識しながら、自らの活動を論理的に他者へ伝えることができる。 | ○ 自らが構想した活動を通じて、「こども芸術」の意義や可能性を論理的に思考することができる。 ○ 他者が共感できる文脈を意識しながら、自らの活動を論理的に伝えることができる。 | ○ 自らの問いをこどもや社会に重ね合わせながら、制作や研究テーマについて多角的に検討し、筋道を立てて言語化できる。 ○ 自らが構想した「こども芸術」の活動から、思考のサイクルを主体的に回すことができる。 | ○ こどもを取り巻く社会課題に対して、自らの考えを論理的に示すことができる。 ○ 「こども芸術」についての自らの仮説を、こどもや社会に働きかけながら実践・検証し、その本質的な理解を進めることができる。 | ○ ものづくりの根源的な意味や意義について自らの体験を通して理解している。 ○ 「こども芸術」の可能性について自ら仮説を立てることができる。 |
| | 発想・構想力 | 感性的な直観と理性的な分析や思考から得られた発想を統合し、具体的な研究・制作へと結びつくテーマや仮説として構想することができる | 自らの疑問や興味関心を出発点とし、こども・他者との共感や共生を目的とする研究・制作テーマを生み出すことができる。また、マテリアルとメディアを適切に選択し、そのテーマを具現化できる。 | ○ 自らの疑問や興味関心を出発点とし、こども・他者との共感や共生を目的とする研究・制作テーマを生み出すことができる。 ○ マテリアルとメディアを適切に選択し、自らのテーマを具現化できる。 | ○ こどもの発達に即した具体的な活動を発想・構想することができる。 ○ 自らのテーマをもとに、適切なマテリアルとメディアを選択することができる。 | ○ 自らの経験（感性）を基に、マテリアルを組み合わせたり、メディアの活用についての探究ができる。 | ○ 五感を通じたマテリアルとの対話から、それらの素質と特徴を自ら探究することができる。 |
| | 表現力 | テーマや仮説を、適切な媒体・形式によってモノ・コトとして可視化し提示することができる | 研究・制作を通して教育・保育・福祉の現場や社会課題に問いを投げかけることができる。また、こども芸術における「あそびごころ」をもとに、自らのテーマを他者・社会に向けて演出・提示できる。 | ○ 研究・制作を通して教育・保育・福祉の現場や社会課題に問いを投げかけることができる。 ○ こども芸術における「あそびごころ」をもとに、自らのテーマを他者・社会に向けて演出・提示できる。 | ○ 対象や環境を意識しながら、自らのあそびのアイデアを他者や社会に向けてひらく工夫ができる。また細部までこだわって丁寧に仕上げるることができる。 | ○ 対象となるこどもや、その環境を意識した活動を通して、あそびが持つ広がりや可能性を理解し、表現できる。 | ○ それぞれのマテリアルが持つ素質や特徴への理解を基に、自らが夢中になれる「あそび」を見出すことができる。 |